

2026 年 2 月 13 日

第 35 回日本医療薬学会年会実施報告書

第 35 回日本医療薬学会年会
年会長 矢野 育子
神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長

事業名：第 35 回日本医療薬学会年会
主催者名：一般社団法人日本医療薬学会
年会長：矢野 育子（神戸大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）
会 頭：山本康次郎（群馬大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）
年会テーマ：医療薬学の深化と広がり―患者アウトカムの改善を目指して―
後 援：一般社団法人 日本病院薬剤師会/公益社団法人 日本薬剤師会/
一般社団法人 兵庫県病院薬剤師会/一般社団法人 兵庫県薬剤師会/
一般社団法人 神戸市薬剤師会/日本薬科機器協会
実施日程：現地開催及びライブ配信：2025 年 11 月 22 日（土）～24 日（月・祝）
オンデマンド配信：2025 年 12 月 10 日（水）14:00～2026 年 1 月 26 日（月）17:00
実施場所：神戸国際展示場（〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-11-1）
神戸国際会議場（〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1）
神戸ポートピアホテル（〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-10-1）
会場数 口演会場：14 会場、ポスター：2 会場、展示会場：2 会場

1. 年会の趣旨：

2025 年 11 月 22 日（土）～24 日（月・祝）の 3 日間、第 35 回日本医療薬学会年会を神戸国際展示場・神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル（兵庫県神戸市）において現地開催および LIVE 配信し、2025 年 12 月 10 日（水）～2026 年 1 月 26 日（月）にオンデマンド配信を実施した。

年会のテーマは「医療薬学の深化と広がり―患者アウトカムの改善を目指して―」と設定した。日本医療薬学会は、その前身である日本病院薬学会として 35 年前の 1990 年に日本病院薬剤師会が中心となって設立され、その後 2001 年に日本医療薬学会に名称変更された。1990 年に発行された「医療薬学 初版」（廣川書店）によれば、『医療薬学における研究展開として、臨床の問題を基礎から解明し、これをまた、臨床にフィードバックしつつ、らせん階段のように円を描きながらも、次第に学問を高めていく展開形式が大事』とされている。このような学問展開は 35 年間古びることなく、医療薬学は医療や時代の変化に合わせて柔軟に進歩・発展し、深化と広がりを見せている。また、2024 年度から開始された新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムでは、「医療薬学」を構成する学問領域である薬理学、薬物治療学、医薬品情報学、薬物動態学、薬剤学、調剤学に関する知識を統合しながら、「臨床薬学」においてチーム医療の一員として薬剤師が個別最適化した薬物療法を実践する臨床教育が行われるとされている。すなわち、臨床で活躍する薬剤師の科学的基盤となる学問領域が「医療薬学」であり「臨床薬学」である。医療薬学の深化と広がりによって患者アウトカムを改善するというエビデンスを示すことが重要と考え設定した本年会テーマに沿って、種々のプログラムを構築した。

本年会では、会頭講演、年会長講演に加え、特別講演 3 題、教育講演 2 題、年会企画シンポジウム 5 件、年会企画国際シンポジウム 1 件を年会企画として設定した。公募したシンポジウム応募 112 件（医療薬学会委員会企画を含む）のうち 66 件とワークショップ 1 件を、一般演題については口頭発表 299 題（うち優秀演題候補 40 題）とポスター発表 1,130 題を採択した。その他、International Symposium と International Session 20 題（Oral：10 題、Poster：10 題）、市民公開講座、受賞講演、メディカルセミナー（29 件）、薬科機器を含む展示等を企画した（表 1）。また、昨年同様に懇親会も現地開催とした。参加登録費等は表 2 の通りである。

早期参加登録者並びに後期参加登録者に招待者（54 名）を加え、最終的に参加登録者は 11,279 名であった（表 3-1）。なお、現地参加者数は 5,853 名（表 3-2）、LIVE 配信視聴者数は合計 1,865 名（3 日間延べ人数）、会期後のオンデマンド配信の視聴者数は合計 9,644 名であった。懇親会参加者は 292 名（招待者除く）であった（表 4）。なお、運営組織は表 5 の通りである。

表 1. 事業内容

-
1. メインテーマ「医療薬学の深化と広がりー患者アウトカムの改善を目指してー」
 2. 年会長講演 1 題
 3. 会頭講演 1 題
 4. 特別講演 3 題
 5. 教育講演 2 題
 6. 日本医療薬学会 学会賞・学術賞・奨励賞受賞講演 6 題
 7. 日本医療薬学会 Postdoctoral Award 受賞講演 13 題
 8. 年会企画シンポジウム 5 セッション（22 題）
 9. 年会企画国際シンポジウム 1 セッション（4 題）
 10. International Symposium 1 セッション（4 題）
 11. 公募シンポジウム 66 セッション（318 題）
 - 1) 医療薬学会委員会企画シンポジウム 6 セッション（29 題）
 - 2) その他（他団体共催を含む） 60 セッション（289 題）
 12. ワークショップ 1 セッション
 13. 市民公開講座 2 セッション
 14. 一般演題 1,429 題
 - 1) 口頭 299 題（うち優秀演題候補 40 題）
 - 2) ポスター 1,130 題
 15. International Session 20 題
 - 1) Oral 10 題（International Session Award 候補）
 - 2) Poster 10 題
 16. 共催セミナー（メディカルセミナー） 29 セッション
 17. 日本薬科機器協会 ワークショップ/新技術・新製品セミナー
 18. 企業展示 47 社（年会企業展示・リクルート展示（13 団体）・書籍展示）
-

表 2. 参加登録費等

参加登録費	正会員	非会員	学生（会員）	学生（非会員）
早期登録	10,000 円	18,000 円	無料	3,000 円
後期登録	15,000 円	23,000 円	2,000 円	5,000 円

海外参加者:10,000円（早期・後期にかかわらず）、市民公開講座:無料、プログラム集 販売費:3,000 円

表 3-1. 参加者数

	参加登録						
	正会員	非会員	学生（会員）	学生（非会員）	名誉会員	海外	招待
早期登録	7,339	1,761	123	27	5	0	0
後期登録	1,055	843	22	20	4	26	54
合計	11,279 名						

表 3-2. ネームカード出力数（現地参加）

	事前送付	1 日目	2 日目	3 日目	合計
件数	464	4,430	827	132	5,853 件

表4. 懇親会参加者

懇親会参加	会員・非会員	学生（会員・非会員）	名誉会員	小計
早期登録	249	9	5	263 名
後期登録	11	2	4	17 名
現地支払い	12	0	0	12 名
合計	272 名	11 名	9 名	292 名

※他に招待者あり

表 5. 運営組織

[年会長]	矢野 育子	神戸大学医学部附属病院
[組織委員長]	大村 友博	神戸大学医学部附属病院
[組織委員]	池末 裕明	名古屋大学医学部附属病院
	岩本 卓也	三重大学医学部附属病院
	大谷 壽一	慶應義塾大学病院
	奥田 真弘	大阪大学医学部附属病院
	加藤 敦	富山大学附属病院
	川上 純一	浜松医科大学医学部附属病院
	木村 健	兵庫医科大学病院
	崔 吉道	金沢大学附属病院
	鈴木 昭夫	岐阜大学医学部附属病院

	塚本 仁	福井大学医学部附属病院
	寺田 智祐	京都大学医学部附属病院
	本間 真人	筑波大学附属病院
	松元 一明	慶應義塾大学薬学部
	三宅 圭一	一般社団法人兵庫県薬剤師会
	室井 延之	一般社団法人兵庫県病院薬剤師会/神戸市立医療センター中央市民病院
	森田 真也	滋賀医科大学医学部附属病院
[実行委員]	飯田 真之	神戸大学医学部附属病院
	五百蔵武士	神戸大学医学部附属病院
	伊藤 雄大	神戸大学医学部附属病院
	糸原光太郎	神戸大学医学部附属病院
	上島 智	立命館大学薬学部
	宇田 篤史	神戸大学医学部附属病院
	榎本 大智	兵庫医科大学薬学部
	大本 暢子	神戸大学医学部附属病院
	岡崎裕太郎	神戸大学医学部附属病院
	桂 敏也	立命館大学薬学部
	北田 徳昭	京都薬科大学
	北廣 優実	神戸大学医学部附属病院
	木村 丈司	神戸大学医学部附属病院
	久米 学	神戸市立医療センター中央市民病院
	栗村 朋子	神戸大学医学部附属病院
	栗原 晶子	武庫川女子大学薬学部
	坂根 稔康	神戸薬科大学
	志方 敏幸	兵庫医科大学ささやま医療センター
	志田 有里	神戸大学医学部附属病院
	谷藤亜希子	神戸大学医学部附属病院
	丹田 雅明	神戸大学医学部附属病院
	徳山 尚吾	神戸学院大学薬学部
	富田 猛	神戸大学医学部附属病院
	中川 俊作	京都大学医学部附属病院
	中村 任	大阪医科薬科大学薬学部
	中山 優子	姫路獨協大学薬学部
	野崎 晃	神戸大学医学部附属病院
	土生 康司	神戸薬科大学
	平 大樹	京都大学医学部附属病院
	増井 翔	慶應義塾大学薬学部
	松本久美子	神戸大学医学部附属病院

山下 和彦 神戸大学医学部附属病院
山本 和宏 岡山大学学術研究院医歯薬学域
米澤 淳 慶應義塾大学薬学部
依藤健之介 社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院

(敬称略・五十音順)

2. 事業成果

コロナ禍を経て第 32 回年会から現地開催を再開し、第 33 回年会では全参加登録者 10,313 名（現地参加 46%）、第 34 年会においては全参加登録者 10,749 名（現地参加 52%）であったが、本年会においても全参加者 11,279 名のうち 5,853 名（52%）が現地参加となった。本年会のメインテーマを「医療薬学の深化と広がりー患者アウトカムの改善を目指してー」と設定し、以下のプログラムを企画した。

特別講演 1 では、神戸大学長の藤澤正人先生に「デジタル・ロボット技術が拓く未来医療」、特別講演 2 では、帝京大学薬学部の安原真人先生に「薬剤師の職能とあるべき姿」、特別講演 3 では、京都大学大学院医学研究科/理化学研究所計算科学研究センターの奥野恭史先生に「AI/DX が拓くデータ駆動型創薬・医療」をご講演いただいた。

教育講演 1 では、アクセリード株式会社 CEO の池浦義典先生に「創薬イノベーションが切り拓く医療の未来」、教育講演 2 では、神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センターの真田昌爾先生に「クリニカルクエストから臨床研究を立案するとき考えるポイント」をご講演いただいた。

年会企画シンポジウムでは、シンポジウム 1：京都大学医学部附属病院薬剤部の寺田智祐先生に「薬剤師が変える医療のあり方：先進的な業務を日常業務に落とし込むための方策」、シンポジウム 2：帝京大学大学院公衆衛生学研究科/日本フォーミュラ学会の今井博久先生と神戸市立西神戸医療センター薬剤部の森本茂文先生に「地域フォーミュラの最新動向及び災害時の有用性～阪神淡路大震災から 30 年の神戸で考える医薬品提供体制～」、シンポジウム 3：山形大学医学部附属病院薬剤部の山口浩明先生に「診療ガイドラインの限界と個別最適化～薬剤師が担う臨床判断の最前線～」、シンポジウム 4：日本大学薬学部臨床薬物動態学研究室の辻泰弘先生に「個別化医療のためのファーマコメトリクスと人材育成」、シンポジウム 5：千葉大学医学部附属病院薬剤部の石井伊都子先生に「近未来の薬剤師キャリアパス」を企画いただき、それぞれ活発な討論が行われ、参加者からも好評を得た。

年会企画国際シンポジウムでは、名古屋大学医学部附属病院薬剤部の池末裕明先生に「Advancing the role of pharmacists in cancer pharmacotherapy in Japan」を企画いただき、日本と米国をそれぞれリードするがん専門薬剤師に登壇いただき、臨床における業務展開や新たなエビデンスの創出など幅広い討議が行われ、がん薬物療法における薬剤師の役割をさらに前進させる契機となった。なお、本国際シンポジウムは公益財団法人小林がん学術振興会の助成を得て開催したものである。

公募シンポジウム（112 件の応募）は、選考委員の評価により 66 件を採択した。66 件のうちには、日本医療薬学会委員会企画として、がん専門薬剤師認定委員会、薬物療法専門薬剤師研修小委員会、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会、フレッシューズ活性化委員会、JPHCS 委員会、2024 年度医療薬学学術第 3 小委員会からの 6 つのシンポジウムが含まれており、加えて 2024 年度医療薬学学術第 2 小委員会からの

ワークショップ1つが採択された。また、国際交流委員会から International Symposium として、「Global Perspectives in Pharmaceutical Health Care: Deepening and Expanding Clinical Pharmacy to Improve Patient Outcomes」が企画され、日本を含むアジア諸国における薬物療法の現状について活発に討論いただいた。

一般演題（1,439題の応募）は、最終的に口頭発表：299題（うち優秀演題候補40題）、ポスター発表：1,130題の合計1,433題を採択した（採択後取り下げ4題を含む。不採択：4題、取り下げ：2題）。例年通り優秀演題の選考を行い、候補40題から8題を選出した（表6）。また、International Session として、20題（Oral：10題、Poster：10題）の英語発表が行われ、海外からも発表いただいた。国際交流委員会での審査の結果、International Session AwardとしてOral発表から2題を選出した（表7）。優秀演題およびInternational Session Award受賞者の10名には、年会2日目の懇親会において表彰式を執り行い、表彰状と記念品を授与した。なお、公募シンポジウムの選考評価、優秀演題のノミネート選考、優秀演題の選考にご協力いただきました各種選考委員の皆様（表8）にお礼申し上げます。

その他、市民公開講座を企画し、「ワクチンとウイルス感染症」と題して、神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター臨床ウイルス学分野の森康子先生と、「薬剤師の視点が物語にもたらす影響」と題して、作家で薬剤師の愛野史香先生に講演いただき、市民の方にも多く参加いただいた。また、メディカルセミナーが29セッション開催され、リクルートコーナーにも13団体からご協力いただいた。

昨年に引き続き懇親会を、年会2日目に神戸ポートピアホテル（南館 B1F 大輪田）で開催し、292名と招待者が参加し、活発に意見交換・交流いただくことができた。

各種認定の研修として、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位の発行を、日病薬病院薬学認定薬剤師制度では、セッション毎の単位発行とし、該当セッションについては現地参加、LIVE 配信、後日オンデマンド配信といずれの参加形式でも取得できるようにした。なお、現地参加での単位取得では、当日該当セッション会場にてQRコードを使用した入退室管理を行った。日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度集合研修単位については、研修単位の管理運営上の問題から、現地参加者のみの取得とした。

年会期間中のLIVE配信視聴者数は合計1,865名（3日間延べ人数）、会期後のオンデマンド配信の視聴者数は合計9,644名であったが、いずれも大きなトラブルなく終了することができた。本年会の準備にあたっては、運営費等の高騰やメディカルセミナー協賛の減少に苦労したが、天候にも恵まれ参加者数の増加に助けられた。また、第34回年会と二年続けて同一コンベンションへの委託となったため、講演者や発表者への対応、ネームカード出力コーナーの複数設置、各種認定単位への対応、誘導人員の配置などスムーズな運営が可能であった。

以上、大きな混乱もなく第35回年会を盛会のうちに終えることができた。これは、日本医療薬学会理事会をはじめとする役員の皆様、事務局の皆様のご支援と、組織委員・実行委員・年会事務局（神戸大学医学部附属病院薬剤部）・運営事務局（JTB コミュニケーションデザイン）など本年会開催に関わった全ての皆様のご尽力、またご参加いただいた皆様および協賛頂いた企業のご理解とご協力の賜物であり、ここより感謝申し上げる次第である。

表 6. 一般演題 優秀演題賞者

演題番号	筆頭演者名	筆頭演者所属	演題名
22-8-001*-3	木崎 速人	慶應義塾大学 薬学部	濁音・半濁音を考慮した新規薬名類似度指標の開発と調剤場面での薬剤取り違えリスク評価への応用検討
22-8-002*-3	石郷 友之	札幌医科大学附属病院 薬剤部	2 点採血によるバンコマイシンの AUC ガイド投与法は腎機能低下症例における AKI リスクを上昇させない
22-9-003*-3	芦刈 香乃	大分大学医学部附属病院 薬剤部	肝細胞癌患者におけるレンバチニブ初回内服後の血中濃度を用いた副作用の早期発現リスク評価について
22-9-004*-2	三星 知	下越病院 薬剤課	ランソプラゾールとセフトリアキソンの併用に伴う心室性不整脈および心停止リスク - JMDC 医療機関データベースの解析
22-9-005*-4	相澤 風花	徳島大学病院 総合臨床研究センター	胆汁酸-胆汁酸受容体が多発性硬化症における神経症状改善を担う
22-9-006*-1	氏家 悠貴	岩手医科大学附属病院 薬剤部	腫瘍の表現型解析に基づいた DNA 障害性抗がん剤の抗腫瘍効果予測モデルの開発
22-9-007*-5	岡本 敬介	北海道大学大学院 薬学研究院	基礎・臨床研究によるセレコキシブがシスプラチン起因性腎障害に及ぼす影響の検証
22-9-008*-3	堀 智貴	奈良県総合医療センター 薬剤部	アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法時の蛋白尿に対するミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の予防効果

表 7. International Session Award 受賞者

演題番号	筆頭演者名	筆頭演者所属	演題名
I01-5	Cao Junru	Department of Clinical Pharmacology and Therapeutics, Kyoto University Hospital, Japan	Applicability of pharmacogenomics panel in clinical quantitative prediction of drug-drug interactions in transplant patients receiving multiple medications
I02-5	Masui Sho	Faculty of Pharmacy, Keio University, Tokyo, Japan	Evaluation of infliximab biotransformation through comparison of quantification by ligand-binding assay and mass spectrometry

表 8. 優秀演題 1 次・2 次選考・公募シンポジウム審査をお引き受けくださった先生

飯田 真之	神戸大学医学部附属病院
池田 龍二	宮崎大学医学部附属病院薬剤部
石澤 啓介	徳島大学大学院医歯薬学研究部臨床薬理学
伊東 弘樹	大分大学医学部附属病院
宇田 篤史	神戸大学医学部附属病院薬剤部
大本 暢子	神戸大学医学部附属病院
桂 敏也	立命館大学薬学部
北田 徳昭	京都薬科大学
北原 隆志	山口大学医学部附属病院薬剤部
志方 敏幸	兵庫医科大学ささやま医療センター 薬剤室

城野	博史	熊本大学病院薬剤部
菅原	満	北海道大学大学院薬学研究院
鈴木	貴明	山梨大学医学部附属病院薬剤部
関根	祐子	千葉大学薬学部
丹田	雅明	神戸大学医学部附属病院薬剤部
徳山	尚吾	神戸学院大学薬学部
内藤	隆文	信州大学医学部附属病院 薬剤部
中川	俊作	京都大学医学部附属病院薬剤部
中村	克徳	琉球大学病院 薬剤部
中村	任	大阪医科薬科大学薬学部
中村	敏明	大阪医科薬科大学薬学部
新岡	丈典	弘前大学医学部附属病院 薬剤部
花輪	剛久	東京理科大学薬学部
土生	康司	神戸薬科大学
平	大樹	京都大学医学部附属病院
松尾	裕彰	広島大学病院薬剤部
松元	一明	慶應義塾大学薬学部薬効解析学講座
村木	優一	京都薬科大学臨床薬剤疫学分野
山下	和彦	神戸大学医学部附属病院
山本	和宏	岡山大学学術研究院医歯薬学域 臨床基礎統合薬学分野
米澤	淳	慶應義塾大学
依藤	健之介	社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院

(敬称略・五十音順)